

2011広島・島根交流神楽フェスティバル



神楽の祭典

8月20日(土)

神楽の未来を支える
-第2回高校生神楽の共演-

11:00開場 12:00開演

神 迎

広島県新庄学園-郷土芸能同好会-

岩 戸

島根県立浜田商業高等学校-郷土芸能部-

滝夜叉姫

広島県立千代田高校-神楽愛好会-

塵 倫

広島県立吉田高校-神楽部-

天慶記・将門

広島県新庄学園-郷土芸能同好会-

八岐大蛇

広島県立加計高校芸北分校-神楽部-

8月21日(日)

特別公演-神楽新時代-

10:00開場 11:00開演

紅葉狩

東山神楽団 北広島町

初演 土 蜘蛛

大都神楽団 島根県江津市

山 姥

大塚神楽団 北広島町

初演 女狐退治

宮乃木神楽団 広島市

初演 月一の舞いのための戸隠山雅鬼揃

亀山神楽社中 島根県浜田市

初演 茨 木

中川戸神楽団 北広島町

主催 広島・島根交流神楽実行委員会

・出演神楽団・北広島町神楽を活かした町づくり研究会
・北広島町観光協会・NPO広島神楽芸術研究所



8月20日(土)

第2回 高校生神楽の共演

①神 迎

広島県新庄学園-郷土芸能同好会-

《出演》

久々能智命……立道健斗
迦具土命……長木 恵
金山彦命……鉄橋郁也
罔象女命……水落智佳
大太鼓……榎野 あゆむ
小太鼓……世良大夢
手打鉦……寄実拓也
笛……藤光 愛

②岩 戸

島根県立浜田商業高等学校-郷土芸能部-

《出演》

兒屋根……安永將人
太玉……小松原 隆史
宇津女……竹原 祐希
手力男……花岡良太
天照大御神……下手 魁 靖
大太鼓……田中 秀和
小太鼓……横手 勇人
手打鉦……有井 久永
手打鉦……佃 奎 吾
笛……大屋 萌

③滝夜叉姫

広島県立千代田高校-神楽愛好会-

《出演》

大宅中将光圀……藤井 貴 史
山城光成……川野 一 輝
五月姫……上中 寛 輝
夜叉丸……吉本 龍 馬
蜘蛛丸……前長 智 哉
大太鼓……今田 拓 也
小太鼓……霜江 勇 弥
手打鉦……山添 讓 貴
笛……森岡 亜悠美

④塵 倫

広島県立吉田高校-神楽部-

《出演》

帶中津彦天皇……佐伯 翼
高麻呂……佐伯 翔
塵 倫……松長 将 弘
鬼……本田 悠 希
鬼……松嶋 健 太
大太鼓……秋田 健 人
小太鼓……河野 咲
手打鉦……渡邊 大 暉
笛……中崎 翔 子

⑤天慶記・将門

広島県新庄学園-郷土芸能同好会-

《出演》

平貞盛……越智 芙美奈
藤原秀郷……佐藤 雄 治
平将門……寄実拓也
平将平……立道健斗
藤原玄明……世良大夢
姫……水落智佳
平国香……梶原 裕 基
大太鼓……榎野 あゆむ
小太鼓……鉄橋郁也
手打鉦……長木 恵
笛……藤光 愛

⑥八岐大蛇

広島県立加計高校芸北分校-神楽部-

《出演》

須佐之男命……小田 晃 司
足名椎……佐々木 星正
手名椎……今田 安沙美
櫛稻田姫……村竹 美沙紀
大 蛇……西田 昌 平
大 蛇……藤本 大 地
大 蛇……本田 忍
大 蛇……乙田 武
大 蛇……西坂 健 吾
大 蛇……端垣 忍
大 蛇……斉藤 健 次
大 蛇……村竹 慎 也
大太鼓……今村 航 太
小太鼓……道冲 みのり
手打鉦……藤原 樹
笛……俵屋 理 奈



8月21日(日)

特別公演 神楽新時代

①紅葉狩 東山神楽団 北広島町

平安時代も中頃、信濃の守(かみ)・平維茂は、戸隠山一帯で悪行を重ねる鬼の一回を征伐に戸隠山に登ります。そこには、艶やかに色づいた紅葉の下で宴を開く美女たちがいました。維茂は美女に勧められるまま酒を飲み、酔い伏してしまいます。美女たちは、にわか鬼の本性を現し、維茂主従に喰いかかりますが、日頃維茂の信心する八幡大菩薩が現れ、鬼女を追い払うと共に『神剣』を維茂に授けます。維茂主従は、激闘の末、鬼を退治するという物語です。

《出演》

平 維 茂……河 月 聡 志	大 太 鼓……米 田 剛
清 原 成 時……益 田 祐 輔	小 太 鼓……有 田 雅 俊
鬼 女 大 王……中 原 秀 成	手 打 鉦……中 村 洋 平
鬼 女……隅 中 康 昇	笛 ……岡 広 徹
鬼 女……佐 原 浩 二	
鬼 大 王……増 田 智 也	
八 幡 大 菩 薩……出 上 忠 美	

初演

②土 蜘蛛 大都神楽団 島根県江津市

初代天皇・神武に滅ぼされた土蜘蛛の怨念が蘇り、平安時代の都の守(まもり)源頼光に乗り移って頼光を病の床につかせました。渡辺綱は頼光を見舞い、家宝の宝刀膝丸を頼光に捧げ、回復を祈りました。その夜半、比叡山の僧と名乗る者が頼光の枕辺に立ち、『あなたの病は、これまであなたが討ち滅ぼした鬼神たちの祟りであり、私の秘法をもって払いましょう』と調伏をはじめます。しかし、この僧の影は妖しい蜘蛛となって障子に映り、我に返った頼光が一刀を浴びせします。すると、僧は流血を残して消え去ったのです。四天王は、土蜘蛛退治へと向かいます。日本の歴史の表舞台から散った『まつろわぬものたち』の悲しい物語です。

《出演》

源 朝 臣 頼 光……大 畑 公 人	大 太 鼓……山 本 大 希
渡 辺 源 氏 綱……中 田 正 則	小 太 鼓……中 垣 光 祐
碓 井 物 貞 之 丞 貞 光……三 原 雄 太	手 打 鉦……福 富 麻 衣
占 部 六 郎 季 武……西 谷 亮	手 打 鉦……福 本 俊 紀
坂 田 主 馬 之 丞 金 時……西 村 勇 樹	笛 ……山 本 あ い
小 姓・竜 洞 丸……佐 々 木 優 月	
土 蜘……恵 木 勇 也	

③山 姥 大塚神楽団 北広島町

越後の国・上路の山に、山賊退治という勅命を受けた源頼光と碓井貞光は迷い込みます。山中のただ一つの灯を見つけ、一夜の宿を願い、一息します。しかしこの家に暮らす母と子は、もともと北面の武士の妻と子として都に在ったが今は離ればなれになり、都を追われ、世を呪い、人々を憎み上路の山の山賊となり悪行を重ねる山姥とその子・怪童丸だったので。山姥と怪童丸は、武勇の誉れ高き頼光と知らず悪行を企みますが、戦いに敗れ怪童丸を見捨てて逃げますが、すぐ立ち戻りわが身の上を明かし、母の一命に替えて怪童丸の命乞いをします。頼光は、この母子の運命を不憫に思い命を助け、怪童丸を家来として都へ連れ帰るといふ物語です

《出演》

源 頼 光……泉 田 瑞 男	大 太 鼓……竹 田 淳 一
渡 辺 綱……佐 々 木 翼	小 太 鼓……金 崎 彰
山 姥……小 田 頼 信	手 打 鉦……齊 藤 潤
怪 童 丸……井 上 隆 太	笛 ……藤 田 好 美

初演

④女狐退治 宮乃木神楽団 広島市

安土・桃山時代の終わり、九州・筑前の国から『岩見重太郎・重蔵』兄弟は、父の仇討ちの旅に出ます。道中、『周防長門の地でわが子をマタギ(狛師)に討たれた女狐が、人間に恨みを晴らさんと災いを重ねている。これを退治せよ』と防府天満宮のお告げを受けます。この女狐は、里娘・およしとなって、重太郎兄弟に襲いかかります。弟・重蔵は落命しますが、剣術指南役の重太郎がこれを討ち取る物語です。

《出演》

岩 見 重 太 郎……西 田 睦	大 太 鼓……佐 々 木 崇 志
岩 見 重 蔵……中 田 綱	小 太 鼓……中 村 昂 哉
地 狐・防 府 天 満 宮・老 狐	手 打 鉦……管 沢 良 典
……田 村 和 也	笛 ……沖 野 桂 史
お よ し……半 田 徹	
よ さ く……管 沢 秀 巳	

初演

⑤月一の舞いのための戸隠山雅鬼揃

亀山神楽社中 島根県浜田市

季節(とき)は秋。奥山の紅葉見物にと繰り出した上臈の女たち。その場に遭遇した平維茂は、胸中に差し支えるもの感じながらも、女主人に誘われるがままに酒席につきまします。絶世の美女と眼にも鮮やかな錦彩る紅葉をめで、頑なな維茂も宴に心を許し酒に酔い、深い眠りへと落ちてゆきます。夢枕に立った神のお告げにより、女たちは戸隠の鬼人であることを知らされ、神徳を受け神剣を授かり、見事鬼人を退治します。古くより戸隠山に住む鬼と語り継がれるこの女人たち……この月一の舞台上で紐解くことができましようか。

《出演》

平 維 茂……梅 川 昌 良	大 太 鼓……小 川 徹
武 内 の 神……新 宅 誉 充	小 太 鼓……大 畑 心
女(大 紅 葉)……大 下 一 匡	手 打 鉦……宇 野 浩 央
女(赤 蜘 蛛)……勝 田 良 順	笛 ……川 上 剛
女(白 蜘 蛛)……宇 津 祥 平	
女(鬼 蜘 蛛)……山 本 真	
女(獅 子 蜘 蛛)……小 川 晋	

初演

⑥茨 木 中川戸神楽団 北広島町

平安時代も中頃、京の都・一条戻り橋には毎夜鬼が現れ、都人は不穏な日々を過ごしていました。その頃、都の守・源頼光は、四天王の一人・渡辺綱に名刀『髭丸』を授け、鬼退治に向かわせました。綱は鬼を取り逃したものの、片腕を持ち帰ったのです。さっそく陰陽師が占うと『七日以内に必ず鬼が取り返しに来る』と言います。七日目の夜・綱の伯母『真柴』が綱に会いに来ます。会ってはいけぬはずの綱は、情に負け真柴を館に入れ、鬼の片腕を見せます。すると、魔性の本性を現し、真柴は鬼となって『虚空飛天』の妖術で大江山へと飛び去っていくという物語です。

《出演》

渡 辺 綱……倉 本 拓 哉	大 太 鼓……反 田 一 生
宇 源 太……前 長 智 哉	小 太 鼓……竹 村 竜 治
紅 葉 姫……室 崎 輝	手 打 鉦……藤 井 貴 史
下 僕 喜 藤 太……室 崎 克	笛 ……藤 田 絵 美
真 柴……松 田 大 地	
茨 木 童 子……前 長 直 哉	
唐 熊 童 子……河 内 洋 介	

ごあいさつ

神楽は、五穀豊穰を喜び、自然の恵みを授けてくれた神さま＝八百万(やおよろず)の神々に感謝する農耕儀礼として古代より秋祭りに行われてきました。

神楽は、日本各地で伝えられていますが、時代の流れに沿い、地方のそれぞれの文化的風土に育てられ、郷土色豊かな芸能となって現代へ届けられました。

私たちの地域の神楽は、『石見(いわみ)神楽』を起源として、鳥根県の石見地方や広島県の芸北地方に伝わるものです。

石見神楽の特色は、古事記や日本書紀の神話をはじめ、各地に伝わる伝説や歴史上の人物を神楽化したものなど、儀礼的な神楽から演劇性・娯楽性の高いものまで、約70の演目があります。

そして、両県合わせて約250団体の神楽団が活動しています。

月一の舞いは、神楽ファンの方や出演神楽団の皆さまからいただいたご意見を参考に、一回毎にテーマを持ってすすめています。

また、鳥根県・広島県それぞれ神楽団の持ち味を充分発揮されることを願いながらお互いの交流と発展を目的にしています。

「月一の舞い」は、神楽が未来へ向って新たな魅力を創造しながら郷土のまちづくり・人づくり・文化の柱となって輝くことを願っています。

いつもありがとうのおつきあい

フレスタグループ



(0826)72-3939

広島県山県郡北広島町有田1532